



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 平成29年度昭和大学卒業式・学位記伝達式が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

平成29年度昭和大学卒業式が、3月9日(金)午前10時から横浜みなとみらいホールにおいて盛大かつ厳粛に執り行われました。今年度の卒業生は、医学部(86回生)101名、歯学部(36回生)80名、薬学部(50回生)171名、保健医療学部(13回生)169名の合計521名で、広い会場は着飾った卒業生と大勢の父兄ならびに関係者の出席で埋め尽くされました。



式は大学協定校である洗足学園大学卒業生のオルガニスト澤菜摘さんの演奏で厳かに開会しました。校歌斉唱に引き続き、各学部の総代に小出学長から学位記が授与され、歯学部総代を鈴木涼夕風さんが務めました。小出学長の告辞と小口理事長の祝辞に引き続き、各種表彰が執り行われました。歯学部からは上條賞を鈴木涼夕風さん、同窓会賞を青木理紗さん、関玲乃さん、川田真鈴さんの3名、上條旗ヶ岡賞をアイスホッケー部の下平剛君が受賞しました。

父兄会から卒業生代表の歯学部坂本和基君へ記念品贈呈があり、在校生代表の送辞と卒業生代表からの答辞に引き続き、昭和大学関係者全員が「昭和大学宣言」を高らかに唱和しました。卒業の歌(3月9日)斉唱のあと、恒例となった応援指導部による卒業生への力強いエールがあり、会場全体が熱気に包まれる中閉会しました。今回コンサートホールでの卒業式となったため、昭和大学管弦楽団およびOBOG会の特別演奏が行われました。歯学部11回生大矢哲雄先生の名指揮で、会場が一体となり卒業を祝福しました。

引き続き午後12時30分から、学部ごとに会場を移し、横浜ベイホテル東急の「アンバサダーボールルーム」において、歯学部学位記伝達式が執り行われました。こちらにも大勢の父兄の参加がありました。宮崎歯学部長、小原同窓会長の挨拶に引き続き、卒業生全員に宮崎歯学部長から学位記が伝達されました。引き続き学生表彰、記念品贈呈および花束贈呈を行い、上條学生部長の挨拶で午後1時半に閉式しました。

伝達式における学生表彰者は以下の通りです。

歯科医学生賞: 佐藤ゆり絵, 教育委員長賞: 山根邦仁, 学生部長賞: 山家怜, デンツプライシロナ・スチューデント・アワード: 篠田眞保, 向井友子, モリタ補綴学賞: 石原弘基, フィリップス賞: 松田彩, ストロマンアワード: 森川金汰, 日本小児歯科学会学部学生優秀賞: 大田千央(敬称略)

卒業生においては、卒業式の学長告辞や理事長祝辞でも触れられた「至誠一貫」の精神を生涯忘れることなく、そして、伝達式で配布された卒業までのロードマップとコンピテンシーを折りに触れては目を通し、本学の卒業生であることに誇りをもって今後各方面で活躍されることを祈念します。



## 大学院修了式が開催されました

大学院運営委員長 山本松男

3月16日(金)に上條講堂で昭和大学大学院修了式が行われました。アカデミックガウンと帽子を着用し、昭和大学管弦楽団による「エルガー、愛の挨拶」の演奏とともに荘厳な雰囲気ですぐに式が始まりました。今年度の歯学研究科の修了生は24名(早期修了者1名含む)で、医学研究科44名、薬学研究科5名、保健医療学研究科博士前期課程6名、後期課程1名、CNSコース1名とともに、小出学長から学位記が授与されました。また学長から、修了生はここまで支えてくれた方々への敬意を忘れることなく、探究心を維持して後進の指導にも当たってほしいという告辞をいただきました。小口理事長からは、研究は科学発展のために不可欠で、それを継続し後輩に伝えていくことが昭和大学の新しい文化の創造につながると祝辞をいただきました。宮崎歯学研究科長・歯学部長からは、これらの研究の遂行が個人だけではなく本学の世界的な評価にもつながっており、個人のためにも大学のためにも研究を継続してほしいという挨拶をいただきました。平成29年度



上條賞は、大田千明さん(歯内治療学)に授与されました。続いて、渡部智貴さん(薬学研究科)が修了生代表となり昭和大学宣言を修了生および昭和大学関係者全員で唱和しました。昭和大学グリークラブのリードで校歌を斉唱し修了式が終了しました。その後、研究科ごとに学位記伝達式が行われました。

## 選抜Ⅱ期入試が行われました

入学支援課 鳥山ちひろ

平成30年度歯学部選抜Ⅱ期・センター利用 A 方式Ⅱ期入試が3月4日(日)に、旗の台キャンパスにて、薬学部、保健医療学部と3学部合同で実施されました。歯学部は16号館、薬学部・保健医療学部は4号館が試験場となり、当日は天候にも恵まれ、各試験場とも特に大きなトラブルもなく、各学部教職員の方々のご協力により無事に終了することができました。



今年度の志願者数は、一般選抜入試Ⅱ期(約8名募集)が169名(前年度188名)、大学入試センター利用入試 A 方式Ⅱ期(約3名募集)が一般選抜入試Ⅱ期との併願を含む30名(前年度21名)と、昨年度より試験日が1週間遅い時期にもかかわらず、たくさんの方からの出願がありました。

そして、3月6日(火)に選抜Ⅱ期・センター利用 A 方式Ⅱ期の合格者を発表いたしました。多くの優秀な学生の入学と歯学部の発展がますます期待されます。

これをもちまして、平成30年度入学試験日程が終了となります。ご多忙の中、ご協力を賜りました教職員の皆さまには、心から厚く御礼を申し上げます。次年度も何卒宜しくお願いたします。

## D2 オリエンテーションが実施されました

口腔解剖学講座 中村雅典

3月1日に D2オリエンテーションが開催されました。新年度の D2は編入生2名を加えた総勢104名です。午前中は宮崎歯学部長の挨拶に始まり、美島教育委員長と上條学生部長からは学部での学則をふまえた学業ならびに生活上での全体的な注意点について、保健管理センター、図書館、学生部ならびに学事から各部局ごとの説明がありました。次いで、荏原警察署による交通安全・防犯講習会が行われました。午後は D2のユニットコーディネーターから各ユニットで行う講義・実習の内容及び注意点の説明の後、本学教育の特徴であるアクティブラーニング・コミュニケーション演習が片岡教授の指導のもとに行われました。富士吉田と旗の台での教育の相違などで出遅れることなく、各学生にとって有意義で実りある学部生活を過ごしてもらいたいと祈念しています。

## 大学院中間報告会を行いました

大学院運営委員長 山本松男

3月10日(土)、17日(土)および24日(土)に、歯科病院6階第2臨床講堂で、23名の方の大学院研究内容中間報告会を開催しました。学位審査を受けるおよそ10ヶ月前程度を目安に研究成果の進捗を見直す機会にしています。主査・副査候補の教員は担当となる研究の共同研究者ではありませんので、多くの学生が研究内容をわかりやすくプレゼンする必要があります。その過程で、研究の追加や修正をすべき内容が明らかになり、学術雑誌等への投稿原稿をまとめる上でも貴重なアドバイスとなる事もあります。学位取得を目指すものにとっては、大変良い鍛錬の場になっているものと思われます。

わが国では超高齢社会となり、これまでに経験のないような大きな変化が急速にすすんでいます。現代の課題を自ら発見し解決をしていく能力がないと、その変化に対応できません。大学院修了に向けて、まとめの踏ん張りを期待します。

## 平成29年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業研究報告会・シンポジウムが開催されました

口腔生化学講座 宮本洋一

平成28年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業に採択されました「医系総合大学の実績を基盤とした生体内レドックス制御機構解明と臨床応用—健康長寿に貢献する大学創成—」(統括責任者:小出良平学長, 実施責任者:上條竜太郎・歯学部教授, 研究期間:5年)の平成29年度研究成果報告会・シンポジウムが、去る3月24日(土)、旗の台キャンパスで開催されました。

私立大学研究ブランディング事業は、学長の指揮下に大学の独自色を打ち出す私立大学に対して文部科学省が研究費の支援をするものです。学内4学部、附属病院、附置研究所および学外の研究者の連携で、レドックス(生体内の酸化還元反応)制御の観点から生活習慣病を理解し、その治療・機能回復・予防を目指すのが本事業の目的です。そのために、分子・遺伝子同定班(班長:板部洋之・薬学部教授)、細胞機能制御班(班長:高見正道・歯学部教授)、シグナル制御班(班長:田中和生・医学部教授)、診断・検査班(班長:美島健二・歯学部教授)、治療・回復班(班長:木庭新治・医学部准教授)および予防・維持班(班長:佐藤 満・保健医療学部教授)が連携して研究を進めています。さらに5名の外部評価者と学内の自己評価委員会による進捗状況の評価および4名の外部アドバイザーによる助言を受ける体制をとっています。

研究報告会・シンポジウム当日は、小出学長によ



る挨拶に続き、名古屋大学大学院医学系研究科病理病態学講座生体反応病理学／分子病理診断学・豊國伸哉教授の講演「がんの起源をフェロトーシスとレドックス制御から考える」が行われました。次に、各班代表者による平成29年度の研究概要説明と22名の研究分担者によるポスター発表では、活発な討議が行われました。その後、外部評価者から事業全体、各研究班および個々の研究に関する講評をいただき、閉会となりました。



## 平成29年度大学院留学生修了証授与式が開催されました

国際交流センター長 宮崎 隆

平成29年度大学院留学生修了証授与式が、3月6日(火)18時30分から大学病院入院棟17階タワーレストラン昭和で開催されました。在日中国大使館、インド大使館、ネパール大使館、フィリピン大使館、トルコ大使館、マダガスカル大使館の関係者ご臨席のもと、小出学長から9名の留学生に修了証が授与されました。歯学部関係では、顎顔面外科学のタンピュー シン先生(ミャンマー)、歯科矯正学のアビシエキ シュレサ先生(ネパール)とヘリズ マミニヤイナ ラコトハリニーヴ先生(マダガスカル)が修了しました。式典には小口理事長、各学部長、各学部国際交流担当教員、留学生の指導教員ほか多数の出席がありました。式典終了後、同会場で懇親会を開催し、学部留学生や研修中の大学院留学生も交えて、国際交流の楽しい時間を過ごしました。修了生が無事に帰国して、昭和大学での経験を生かして引き続き本國でご活躍されることを祈念しています。

## 謝恩会に出席しました

教育委員長 美島健二

昭和大学歯学部第36期生の謝恩会が、平成30年3月9日(金)に帝国ホテル孔雀の間東で開催されました。謝恩会に先立ち卒業式がみなとみらいホールで、学位伝達式が横浜ベイホテル東急アンバサダーズボールルームで行われました。本年度の卒業式は、オルガン奏者の澤菜摘さんのパイプオルガンの演奏により始まり、とても荘厳なすばらしい式となりました。謝恩会では、卒業生とご父兄の拍手に迎えられ、小口理事長、小出学長、片桐名誉学長に続いて、宮崎歯学部長を先頭に歯学部教員が入場しました。謝恩会委員の開会の宣言に続いて、御来賓の小口理事長、小出学長、片桐名誉学長、與儀父兄会長から心温まる御祝辞を頂戴しました。宮崎歯学部長から

は卒業生に対する激励がなされ、榎病院長の乾杯の音頭で祝宴に入りました。続いて、小原歯学部同窓会長や教育委員長の挨拶があり、恒例になったランキング発表では、多くの教員が表彰され盛り上がりを見せていました。会場での記念撮影のあと、卒業生より御父兄への感謝の念が伝えられ、盛会裡に閉会となりました。

謝恩会委員長をはじめ企画・進行に携わった卒業生の皆さんお疲れ様でした。卒業生全員の進路に幸多からんことを祈っています。



## 上條旗ヶ岡賞を受賞しました

歯学部6年 下平 剛

昭和大学第36期生の下平剛と申します。この度は上條旗ヶ丘賞をいただくことができ、大変光栄に思います。私は昭和大学歯学部に入學してから6年間アイスホッケー部に在籍していました。アイスホッケー部はもうすぐ55周年を迎えようとする伝統ある部活で、昭和大学理事長である小口勝司名誉部長、高須クリニック院長の高須克弥先生など数々の偉大なOB・OGが在籍しております。アイスホッケーはマイナースポーツが故にリンクを使用できる時間が限られており、部活の日は夜中の12時過ぎから練習が始まり、朝の3、4時に帰宅します。最初は朝起きるのが辛い時もありましたが、徐々に慣れていきました。またアイスホッケー部は医療系の大会に加えて一般の大学も含むリーグ戦にも参加しており、春には全国1、2位のチームと試合をします。結果はいつも惨敗でしたが、とても貴重な経験をすることができました。このように部活で心身共に鍛えられたことが国家試験合格にもつながったと思います。勉強がうまくいかなかったときに焦らず前向きに物事を考えることができました。困ったときには相談に乗ってくださる部活の先輩方も多く、部活をしていてよかったなと感じることが多かったです。このように部活のおかげでメリハリのある6年間になり、上條旗ヶ丘賞を受賞することができました。これからは昭和大学歯学部卒業生として日々精進しますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



## 上條賞(大学院)を受賞しました

歯学研究科(歯内療法学) 大田千明

3月16日に行われました昭和大学大学院修了式にて、上條賞を受賞いたしました。このような名誉ある賞を頂けたことを大変光栄に思います。私は大学院研究として、「*Streptococcus sanguinis*のノンコーディング RNA の機能解析」をテーマに口腔微生物学講座にて研究をさせて頂きました。細菌では低分子のノンコーディング RNA が病原性因子の制御に重要とされており、まだ解明されていない口腔レンサ球菌の制御機構を明らかにすべく日々実験を行ってきました。大学院生活は大変なことも多々ありましたが、多くの人々に支えて頂き、非常に貴重な経験を積むことができました。今後はお世話になった方々への感謝の気持ちを胸に、歯科医師として、研究者として、より一層成長できるよう日々精進できればと思います。また、これまでの経験を活かし、昭和大学のさらなる発展へと貢献できるよう努力してまいります。研究のご指導を下さった口腔微生物学の桑田啓貴教授、森崎弘史先生、歯内治療学の鈴木規元准教授、主査・副査の先生方、医局員の皆様、これまで支えて頂きましたすべての方々にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。



授が代表者の柔道護身術研究会が認定されました。

表彰式に引き続き、1階ホールで懇親会が開催され、富士吉田の地ビールほかのご馳走を囲んでを懇親を深めました。サークル活動を通じて医療現場だけでなく多職種連携の輪が広がることが期待されます。

## 横浜市消防局から人命救助で感謝状を受けました

歯学研究科(地域連携歯科) 松井庄平

平成30年1月31日、電車内で心停止の傷病者に救命活動を行いました。そして先日その事に対し、横浜市緑消防署長より感謝状を頂きました。



早朝の静かな電車内で、バタッと音がして、大丈夫ですか！という声を耳にした瞬間、私は倒れた方に駆け寄りました。意識消失を認め、呼吸・脈拍も無くなった為、周りの乗客の方に協力を呼びかけ、救命活動を開始しました。AEDも使用して除細動を行い、その後到着した救急隊にスムーズに引き継ぐ事ができました。後日、退院し社会復帰されたご本人からご連絡を頂き、ご家族も一緒にお会いしてお話した時には、感慨深いものがありました。私は現在大学院生ですが、歯科病院在籍中に北部病院での麻酔科研修、昭和大学病院救命救急センターでの研修にて勉強させて頂きました。今回その時の学びや経験を生かすことができ、医療従事者として大変嬉しく思います。救命救急センターで指導医としてご指導下さった三宅先生をはじめ、田中啓司先生、海老原先生に、この場をお借りして御礼申し上げます。また連携歯科丸岡先生には、医科研修を積極的にさせて頂き感謝しております。BLSは定期的に受講すべきだと再認識する機会でもありました。今後も精進致します。

## 平成29年度優秀サークル表彰式が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

本学では職員の懇親と親睦を促進するために平成23年から職員公認サークル制度を設けています。ホームページで紹介されていますが、現在176の公認サークルが活動をしており、年間活動の顕著なサークルを毎年表彰しています。



平成30年度の優秀サークル表彰式が去る3月26日(月)午後6時から16号館3階講義室で開催されました。表彰されたサークルは、SDC、写真クラブ、ベイエリアランナース、うまか手ごねパン一緒につくるばい、書道部の5サークルで、小口理事長から代表者に表彰状と金一封が贈呈されました。

また、30年度の新規公認サークルの認定通知授与式も行われ、山梨の魅力を紹介し隊、日本文化研究会とともに、口腔リハビリテーション医学部門高橋教

## 行事予定

広報委員長 中村雅典

4月2日(月):D4・5・6オリエンテーション

4月7日(土):大学院入学式

4月12日(木):入学式

## 編集後記

歯科補綴学 葭澤秀一郎

都内でも先週ごろより桜が満開になりました。活気あふれる時期ですが、忙しい日々が続くと思います。皆様どうぞご自愛ください。

末筆ながら、年度末のご多忙の折、皆様から多くの記事をご寄稿いただきましたことを、この場をお借りして深謝致します。